
網渡りの世界

Ushi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

綱渡りの世界

【コード】

N7940H

【作者名】

Ushii

【あらすじ】

子供の頃に誰もがやる「色タイルの上から落ちたら駄目ゲーム」。その裏に隠された世界の真実とは。

(前書き)

あの遊び面白いよね

君はいつも下を向いて歩くね、そう言ったのかい？なら歩きながらその訳を教えよう。ああ、もう少し右によった方がいい。

餓鬼の時分アスファルトに敷かれた色違いのタイルが気になって仕方なかった。誰にでも似たような経験があるんじゃないかな。いつも白いタイルを踏まない様に歩いてた。そしたらある日確信したんだ。

白いタイルの上にとるといなくなる

意味が通じにくかったかもしれないな。つまりさ、ソイツの存在が無かったことにされるんだよ、過去も今も未来も。

例えば今、僕が君の目の前で急に消滅したとしたら「消えた」ということすら君は知覚できない訳だ。君は何事もなかったかのように歩き去ることだろうね。

もちろんそんな危ない場所がそこら中にある訳じゃない。あったらこんな話ができるまで生きてられないよ。数多あるタイルの中にポツポツと隠れているんだ、ソレは。

どうしてそんな物が存在するのか、今でもまるで見当がつかない。神や悪魔の仕業にしては余りに無意味過ぎるように思う。もっと、自動的な物なんじゃないかな。りんごが地面に向かって落ちていくようなものだと思うんだ。

是がどれだけ理不尽な話かわかるかい？

僕はこの事に気付いてから外出する時はより一層周囲に注意を払うようになった。なにせ命がかかっているからね。そうして分ってきたが、そうやって不運な奴が消えるとその場面を見ていた連中の記憶が修正される際に齟齬が起こるようなんだ。既視感というやつだよ。一度見た風景が今度は一人抜けた姿で再生されるのだから覚えがあつて当然だ。

そのことを念頭に置いて生活していると酷く嫌な考えが頭に浮かんでくるんだよ。実を言うと僕は自分に弟がいたのじゃないかと疑っている。

持っていなかった三輪車、通ってもいかなかった幼稚園、誰かと遊んだ筈のシーソー、どれも自分とは関連のない事柄の筈なのに側を通ると強い既視感に苛まれる。一体これはなんなのだろうね。

小さい弟の手を引いてやっている兄を見た時に、自分はとても大切な奴を置いてきた気持ちに襲われるんだ。自分が泣いてやらなきゃいけない気分になるんだ。

昔泣き虫だった奴が言っていた言葉を思い出す、「泣けぬことは哭くより悲しい」、本当に、そう思うよ。

どれだけこの世界が不安定なものか、それを考える心底とぞっとする。象や亀や蛇の上に乗っているのと何も変わりはない。

ずっと考えてきた、何で自分にだけこの事実が「わかった」のか。そこで辿り着いた結論はこうだ。今、僕が君に話しているように昔誰かが僕にこの事実を「話した」。そしてのっかってしまったのだから白タイルの上に。後にはその話だけが残されるってね。それが誰だったかは非常に興味があるけど今となっては知る手段が無い。とても残念だよ。

さて、ここから先は白いタイルしかないが君はどうする？僕はもちろん引き返して別の道を探すよ。信じる信じないは君の自由だ。

さあ、どうする？

「完」

(後書き)

いや、ほんと、まごじど

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7940h/>

網渡りの世界

2010年11月12日16時35分発行